

今月のテーマ 『水と衛生月間』

第1469回例会

2017年3月23日 Vol.31/No.33

■本日の例会 / 第1470回 平成29年3月30日(木)

●会長・幹事報告

●各委員会報告…各委員長

例会終了後 歓楽会 夜間例会

レミューズ 18時30分

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……………55名
- ・出席者 ……………32名
- ・欠席者 ……………23名
- ・出席率 ……………58.18%
- ・3/9の修正出席率…72.73%

■会長挨拶



会長 香川美穂子

こんにちは。3月19日の宮崎日日新聞に、「心に代わる能力探求」と題して面白い文章が載ってありました。能楽師の安田登さんという方が「心に代わる新しい人間の能力は何か？」と、古代神話を能や狂言・電子音楽・浪曲などジャンルを超えた諸芸能を動員して舞台作品化しようと探求しておられるそうです。漢字は1300年ほど前に出来たそうですが、初期の頃の漢字の中には「心」という文字はなかったとの事。人間の「心」はその文字とともに生み出された振興概念であり、そこから派生する「悲しむ・悩む・恨む」等の感情の言葉も漢字が生まれて300年ほど経ってから出て来たそうです。安田さんは「それ以前の古代人には『心』が無かったのです」と言い切っておられますし、古代メソポタミアのシュメール語などにも今の「心」に当たる言葉はないのだそうです。そして発生当初の「心」と言う概念は何かと言うと、それは「今ここには無い物事に考えを至らす力」だそうです。それによって人間は「未来」を手に入れ、又そこから逆算して行動することで運命を変えることが可能になったとのこと。ところがその「心」には強烈な副作用があります。「未来」が見えるからこそその「不安」、そして「未来」とともに手に入れた「過去」と言う意識により強いられる「後悔」の存在。「不安」によって病になり後悔に苛まれ絶望する現代人の姿に安田さんは3000年続いた「心の時代」の終局を見るそうです。「心」の終わりの兆候は精神の病や引きこもりなどの形で敏感な人の体に湿疹のように、すでに顔を出していると安田さんは言っておられます。「心」の前の人間の主な道具は『体』だったはず。神話に刻まれたその記憶を言葉ではなく、演劇という身体

的表現で追体験できないか」と言う思考スケールの極端に大きいこの安田さんの試みに、記事を書いた記者は「体から心へシフトした人間の画期(目覚ましい様子)を想像することで次の時代への足がかりとする」と結んでいます。人間という生物の進化というか成長の歩みを皆さんどう分析なさいますか？ただただ生き物としての身体だけの存在。そこに「心」が生まれ周りに対する思いやり心配りができるようになり「人間」。そしてその次は何でしょう。私は「精神・思考」だと思っております。日本語ではチョット混乱しそうですが「心」はHEARTで「精神・思考」はSPIRITという感じでしょうか。周りに対して思いやる心を持ち更にそこには一本筋の通ったゆるぎ無い思考のある「人」。そういう存在を私は目指して行きたいと思っております。それはきっとロータリー精神に合致すると思います。

■幹事報告

幹事 平松 寛



6月3日台湾での第18回
ロータリー国際囲碁大会の開催
案内

日向中央ロータリークラブ
創立30周年式典及び祝賀会のお礼が届いております。

宮崎東ロータリークラブ、創立20周年記念式
典及び祝賀会の案内が届いております。

6月10日(土) ニューウェルシティ宮崎
16:00~

■会員卓話

渡邊 勝 会員



国宝 羅漢天目茶碗について

羅漢天目茶碗(ようへんてん
もくちゃわん)とは、約800年
前に中国南部の福建省の建窯(け

んよう)で作られ、世界の陶芸史上最も美しく、そして最大の謎に包まれた幻の茶碗です。

鎌倉時代に中国から交易品として日本に伝わりました。室町幕府の足利將軍家の宝物について記した巻物には、「この世にこれ以上のものはない」と最高の評価が与えられています。

「耀変」とは、元来「窯変」(ようへん=陶磁器を焼く際、窯の中で予期しない色に変わること)、や「容変」の言葉が当てられておりましたが、その茶碗には黒釉(こくゆう=黒色のうわ薬)の下地に大小の瑠璃色あるいは虹色の光彩の斑紋(=まだら模様)が散在することから、「星」や「輝く」という意味の「耀」の字が用いられるようになったと言われています。

「天目」の語源についてはいくつか説がありますが、一般には中国浙江省にある天目山の名に由来するとされています。現在では黒いうわ薬のかかった茶碗を一般的に天目と呼んでいます。

今回取り上げました「耀変天目茶碗」の輝きには宇宙を思わせる様な神秘的な美しさがあります。

日本の最高権力者の手を渡り歩いてきたとされその美しさの再現は、現代に至るまで不可能でした。

しかし近年ようやく耀変天目の再現が可能となってきました。

その技術は大変繊細なもので数多く出回る事は難しいと思われませんが、この手にできる可能性が現実的になった事は喜ばしい限りです。

会員卓話

川崎 新一 会員

宮崎の救急医療について



まずは、救急医療とは1分1秒を争う医療行為であると思っております。

迅速で適切な、救急救命処置次第で、命が助かるか、後遺症が出ないか等にも影響がでてきます。

日本の救急は、「救急搬送」の前半部分と、「救急医療」の後半の部分から成り立っております。

ここでは救急医療を利用する側の立場から、前半部分の「救急搬送」の問題点と課題について、話をさせていただきます。

救急搬送業務は、119番通報を受ける、消防署の仕事であります。ちょっとデータが古いです

が、平成24年度に出動した救急車が、119番通報から、現場到着までにかかった時間を、総務省消防庁が発表しております。これによりますと、宮崎県は、平均9分30秒と、前年より12秒長くなっており、全国では、ワースト2位となっております。しかも、到着時間は年々延びております。

次に、119番通報から救急患者を病院に運ぶまでにかかった平均時間も、前年比で36秒長い3分6分48秒かかっており、こちらも過去最長となっております。ちなみに、全国平均は3分8分42秒ですので、全国平均よりも少しは早くなっております。

この要因について、県の消防保安課の発表によりますと、現場到着所要時間の伸びは、出動件数が増えて、救急車がすぐに手配できないケースが増えたことや、県内9つの消防本部の管轄面積が、全国と比べて広いことが、影響していると、しております。県内で搬送した人の36.9%は軽症で、搬送時間短縮には、救急車の適切な利用を呼びかけており、また、タクシー感覚での容易な利用は緊急搬送の妨げにもなるので、控えてほしいと呼びかけております。それから、救急患者を病院に運ぶまでの時間が伸びている要因は、救急搬送において、受入先医療機関の決定までに時間を要する事案が、増加しているとのことです。

これが宮崎県の救急搬送の現状ですが、宮崎県の高齢化は全国平均よりも5年早く進んでいると言われておりますが、高齢化が進むにつれて救急搬送は増加していくものと考えます。

往々にして、病気の発症時間は診療時間外の深夜や早朝が多い中で、高齢の救急患者に対して、適切な利用をしてほしいとか、タクシー感覚で利用しないでほしいとか言われても、診療時間外でどうしていいのかわからず、119番通報をすることが現実的だと思います。こういうことを考えてみても、今後益々、救急搬送の需要は増加していくものと思います。それでは、行政は救急搬送の増加に対して、救急車を増車し救急隊員を増やすことが出来るのでしょうか。これは非常に難しいのではないかと思います。日本は、これから、本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えようとしております。このような中で、労働人口が減少し、税収は益々減少する一方、医療費や介護費、年金

発行/宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町須山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/菅川美穂子 副会長/三輪修彦・田中 寿 幹事/江藤敬治

などの社会保障費は増大し、今後、財政は益々厳しくなると予想されます。このように、国や地方自治体の財政は、今後、一層厳しくなることが見込まれますので、早急な救急搬送体制の強化は難しいと考えます。このことが大きな問題点であります。

ここで、私が提言した一つ目ですが、救急搬送にスピード感を持たせ、高いサービスの提供を目指すために、救急車の利用を受益者負担にしているかどうかということでもあります。欧米やアジアでも有料にしている国は沢山あります。例えば、アメリカのニューヨークは公営と民営がありますが、日本円で25,000円、ドイツは公営で22,000～73,000円、フランスは民営で23,000円、カナダは4,000円、シンガポールは事故の場合は無料で病気の場合は公営で2,000円、民営で4,000円となっております。参考になるのではないかと思います。

有料化のメリットは、一つには、本来救急車を呼ぶ必要のない軽症者の利用を抑制でき、また、救急車をタクシー代わりに利用する不適正利用者を抑制できます。そして、救急業務におけるコストの削減ができる等があげられます。反面、デメリットもあります。低所得者の利用が、抑制されてしまうのではないかと、ということでもあります。あまりに高額な料金を設定すると、低所得者層の適正利用を抑制してしまい、本来の目的である、救急車の適正利用を、阻害することになりますので、このことを十分に検討していくことが必要になります。

次に、二つ目の提言ですが、我が国では、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)が平成11年7月に制定されておりますが、このPFI事業は安倍政権の民間投資を喚起する成長戦略の柱の一つにもなっております。PFIとは英語の「プライベート・ファイナンス・イニシアチブ」の略ですが、施設そのものは地方自治体が所有したまま、施設の運営権を民間業者に設定する方式で、自治体も財政的に厳しい中、自治体の財政負担を軽減するだけでなく、利用者ニーズにあった質の高いサービスの提供を目指します。現状でのPFI事業では文化施設が最も多く、医療施設や廃棄物処理施設等で利用されております。ただですね、調べたところ、救急医療は行政側が深く関わる国家的事業でありまして、関係する省庁も厚生労働、文部科学、総務、国土交通の四つもあり、それぞれの省庁の岩盤規制を破るには相当のハードルが高いものと思っております。

最後になりますが、救急医療について、少し勉強しましたが、欧米の救急搬送が進んでおり、参考にするべきではないかと感じました。救急搬送を巡る課題は、高齢化や人口減少の進展、私達、使う側の意識の変化や核家族等の社会情勢の変化に伴い、救急利用が増大、多様化している中、救急搬送車は急増してきており、特に、高齢者を中心として今後も増加することが予想されます。ちなみに平成27年度の救急出動件数の増加率が全国で最も高かったのは宮崎県で前年度比3.5%増になっております。このように、益々、救急需要が増加することで、救急搬送の対応の悪化が予想される中では、早急に抜本的な改善策を検討する必要があると感じた次第です。

ハッピーボックス (敬称略)

- 長友春雄…結婚記念日のお祝いにお花を頂きありがとうございました。花好きな家内も大変喜んでいました。
- 江島寛…娘がチーフ・キャビンアテンダントに次ぐNo.2のリード・アテンダントに昇格しました。本人は給料が10万アップすると喜んでいますが、ますます婚期が遅れそうで心配です。
- 長友久人…結婚祝いのをいただき ありがとうございます。結婚してあっと言う間に 四一年が経ちました。今後も健康に気を付けて、いきなりたいと思っています。
- 生駒俊明…先日素敵なお花をいただきました。結婚して三十七年目を向えることができました。振り返ると色々なことがありました。これからも夫婦共に感謝の気持ちを忘れず五十年(金婚式)を目標に頑張ります。
- 藤原昭公…結婚記念のお祝い、ありがとうございます。結婚して何年経ったのか、子供の年令を確かめなければ分からなくなりました。

出席委員会報告 委員長 岡田圭史

◆3/9メイクアップ者名 (敬称略)

江藤敏治、片木重光、川崎新一、秦喜八郎